

15日、明るい民主大阪府政をつくる会・常任幹事会は次のアピールを発表しました。

「オール大阪」・庶民の共同でダブル選挙に勝利し、「維新政治」に終止符を打とう

2015年10月15日 明るい民主大阪府政をつくる会・常任幹事会

(1)

11月5日告示、22日投票でおこなわれる大阪府知事選挙（大阪市長選挙とのダブル選挙）が目前に迫りました。今回の知事選挙・ダブル選挙の最大の焦点は、府民共同の力で「維新政治」に終止符を打ち、庶民のまち・大阪にふさわしい府政をきずくことにあります。

2011年のダブル選挙において大阪府・大阪市に維新首長が誕生してから4年、①くらし、福祉施策はバツサリ削り、大阪経済、雇用とくらし向きは全国どの県以上に落ち込んでいます。②「なんでも民営化」路線で、府立・市立の施設をつぶして統合をすすめ、問題続出の「公募区長」「公募校長」を続

けるなど、自治体としての公的責任を投げ捨ててきました。③「選挙に勝てばなんでもできる」という「独裁」手法を持ち込み、「対立」と「混乱」を生み出してきました。「明るい会」は、従来の「オール与党」にもなかった、こうした危険で異質な内容と手法をもつ「維新政治」にたいして、その真相を明らかにし広く知らせてきたかかってきました。そして2年前の堺市長選挙を皮切りに、今年の大阪市の「住民投票」では、「維新の会」以外の「オール大阪」の共同で「大阪市つぶし」の「大阪都」構想をストップさせ、「維新政治」にノーをつきつけました。

このなかで迎えたのが今回のダブル選挙です。「反維新」の新しい共同の広がりの中で、栗原貴子・自民党府議団政調会長が知事選立候補を表明しました。栗原氏は出馬にあたり、「当たり前前のことができていなかった大阪府政を何とかするため、大阪維新の会の政治を終わらせる必要がある」「大阪維新の会は派手なことばかりで、府民の目線に立っていない。高齢者や子ども一人ひとりに心を配り、府民に寄り添える政治を目指したい」とのべています。

「明るい会」は「維新政治ノ」。「まともな府政を築く」という一点で、栗原貴子氏を自主的に支援して、勝利のために総力をあげます。栗原氏と私たちが掲げる個々の政策や要求の違いはありません

(2)

「明るい会」が知事選挙で独自の「推薦候補」を持たず、「自主的支援」でたたかうのは、1971年に「会」を結成して以来、初めてのことです。今回、私たちがこうした態度をとる意義は以下の点にあります。

質な中身を持っています。こうした地方自治と民主主義破壊にたいして、国政での政治的立場や他の政策での違いをこえて、「維新政治ノ」をかかげた声と運動が広くわき起こり、大阪では自民党を含む各政党、団体、個人がこの一点で手を結び、立ち上がっています。私たちの態度は、これに応えたものです。

すでに大阪では堺市長選挙や大阪市の「住民投票」において、「維新政治ノー」「大阪都ストップ」など一致する目標で共同し、勝利しました。ダブル選挙は、こうした到達のうえに、さらに広く、大きな共同をつくりだしてこそ勝利し、「維新政治」に終止符をうつことができません。

第3に、ダブル選挙で「維新政治」に終止符をうつこと

(3)

維新の会は、ダブル選挙で「過去に戻すか、前に進めるか」という欺瞞に満ちたスローガンをかかっています。そこにあるのは、「大阪都」構想「ノー」という手厳しい審判を受け、「前に進める」どころか、「維新政治」そのもの間違いが誰の目にも明らかになったから、橋下氏は「政界引退」するのではないのでしょうか。ところが、その民意に背き、またぞろ「大阪都」をかかけてきます。これはそれ以外に語るべき政策が何もない、情けない姿ではないでしょうか。4年前のダブル選挙で、橋下氏や松井氏は、「強い大阪」(年2%以上の

が、府民の声で動く府政への新たな扉を開くものになるからです。また、橋下「維新」をまきこみ改憲をねらう安倍政権の策動を打ち破るなど、国の政治の流れを変える大きな一翼となるでしょう。

「大阪が変われば日本が変わる」この歴史あるスローガンを今日にふさわしく高く掲げ、共同のたたかいと勝利に大きくのりだそうではありませんか。

経済成長、「やさしい自治体」などの「マニフェスト」をかかげました。しかし、実際にやったことは、くらし破壊と大阪経済の落ち込み、財政の深刻化であり、「府市一体」での府民・市民向けサービスや施設つづし、職員のしめつけ、教育への政治介入など、「前に進める」どころか、一路後退につぐ後退だったではありませんか。一方、「反維新」の共同こそ政治を前にすすめる力になることは明らかです。「反維新」の立場をとる堺市では、国民健康保険料の引き下げ、中学校卒業までの医療費助成、「おでかけバス」の充実など、市民に目を

向けた施策が展開されていきます。大阪市議会でも、市民のための施策を守る立場から4野党が共同する姿が広がっています。過去にあった「日本共産党をのぞく『オール与党』体制」は一変しています。

維新の会は、政策論争では太刀打ちできないとみて、「相手は野合」とか、「身を切る改革は維新だけ」などとうそぶいています。

しかし、大阪府政・市政の焦点の課題が、「維新政治」打破にあるとき、国政での政治的立場や他の政策では異なっても、この一点で政党、団体、個人が力を合わせるのあたりまえではないのでしょうか。「野合」批

「明るい会」は、「論戦の力」「共同の力」「草の根の力」を発揮し、勝利へ総力をあげます。論戦では、「維新政治」と正面からたたかってきた「明るい会」ならではの役割として、「維新府政」「維新市政」の実態を府民的に浮き彫りにする活動をすすめます。「維新政治ノー」「庶民のまち・大阪にふさわしい府政を」など、共同

判は、この共同に対する恐れを表れであり、府民的大義の前に、通用するものではありません。

また、維新の会が「身を切る改革」などと、よく言えたものです。みずからの野望である

「大阪都」の設計図づくりのために数十億円の府民・市民の税金を使い、また国民の税金である政党交付金にどっぷり浸かり、その5億円以上をあてた

「金権住民投票」を展開したのには彼らではありませんか。また「政務活動費」を高級車のリース代や架空のビラ発行代として取得していたことなど、維新の会の地方議員による不正はあとをたちません。

「明るい会」は、「論戦の力」「共同の力」「草の根の力」を発揮し、勝利へ総力をあげます。論戦では、「維新政治」と正面からたたかってきた「明るい会」ならではの役割として、「維新府政」「維新市政」の実態を府民的に浮き彫りにする活動をすすめます。「維新政治ノー」「庶民のまち・大阪にふさわしい府政を」など、共同

せませす。「縁の下の力持ち」になることを含め、共同を発展させる立場から、誠実に、ありとあらゆる対応をすすめます。共同をこわすあらゆる策動のたたかいもすすめる必要があります。

「明るい会」のすべての団体、その構成員がたちあがり、草の根で宣伝・対話を推進することが、勝利の力ぎをにぎりま

「金権住民投票」を展開したのには彼らではありませんか。また「政務活動費」を高級車のリース代や架空のビラ発行代として取得していたことなど、維新の会の地方議員による不正はあとをたちません。

「明るい会」は、「論戦の力」「共同の力」「草の根の力」を発揮し、勝利へ総力をあげます。論戦では、「維新政治」と正面からたたかってきた「明るい会」ならではの役割として、「維新府政」「維新市政」の実態を府民的に浮き彫りにする活動をすすめます。「維新政治ノー」「庶民のまち・大阪にふさわしい府政を」など、共同